

第I章 序 説

1 調査に至る経緯

平成9年、佐渡島に残る金銀山の重要性を世界に発信し、その保護と活用を目的として佐渡郡町村会により「佐渡金銀山遺跡調査検討準備会」（以下準備会、平成16年3月市町村合併まで）が発足した。準備会は分野ごとに調査部会が設けられ、旧市町村と協力して各種の調査を進めてきた。準備会及び関連市町村のこれまでの調査成果については、平成14年度に旧相川町教育委員会の『佐渡金銀山 相川町鉦山間歩分布調査・寺社調査報告書』、平成16年度に佐渡市教育委員会の『佐渡金銀山 相川地区石造物分布調査報告書』が刊行されている。この間、旧相川町では佐渡金銀山遺跡の調査推進を目的として、平成15年度に町長部局に佐渡金銀山課が設置されている。

こうした中で、相川地区（旧相川町）の「上相川」と呼ばれる、相川金銀山に係る鉦山集落跡は、その存在が認知されていたにもかかわらず、本格的な調査が行われてこなかったため、遺跡の規模や内容については不明な点が多く、遺跡の周知化も行われていなかった。

このため、旧相川町教育委員会では、平成15年度から平成20年度にかけて上相川地区の学術調査（遺構の分布調査・地形測量・確認調査）計画を立案し、将来的な史跡整備を視野に入れた保存目的の範囲内容確認のため、平成17年度から4年にわたる確認調査を実施することとなった。また、平成16年3月には市町村合併が行われて新たに佐渡市が誕生し、準備会及び旧相川町佐渡金銀山課、相川町教育委員会の調査を引き継ぐ形で、佐渡市教育委員会生涯学習課に佐渡金銀山室が設置され、佐渡金銀山遺跡の調査を全島規模で本格的に実施していくための体制が作られた。その後、平成18年度に組織改編により文化・文化行政を主な用務とする文化振興課として独立し、平成19年度には課名を世界遺産・文化振興課へと変更している。

2 調査・整理体制

A 調査体制

平成15年9月から平成16年3月、平成16年9月から平成17年3月にかけて、分布調査・測量調査を実施する前に現地の立木竹の伐採作業を実施した。平成17年度の現地調査は、7月より11月にかけて実施した。平成18年度の現地調査は、6月から12月にかけて実施した。調査体制は以下に示すとおりである。

平成15年度

調査期間	平成15年9月1日～平成16年3月31日
調査主体	相川町（町長 弾正俊一〔平成16年2月28日まで〕） 佐渡市教育委員会（教育長 石瀬佳弘〔平成16年3月1日から〕）
調査指導	文化庁、新潟県教育庁文化行政課
総括	大平三夫（相川町 佐渡金銀山課長〔平成16年2月28日まで〕）

大蔵 勇（佐渡市教育委員会相川事務所 生涯学習課長〔平成16年3月1日から〕）
 柳平則子（相川町教育委員会 生涯学習課副参事
 〔平成16年2月28日より佐渡市教育委員会相川事務所 生涯学習課副参事〕）
 門口 栄（相川町 佐渡金銀山課補佐
 〔平成16年3月1日より佐渡市教育委員会 生涯学習課佐渡金銀山室長〕）
 斎藤本恭（相川町 佐渡金銀山課主事
 〔平成16年3月1日より佐渡市教育委員会 生涯学習課佐渡金銀山室主事〕）
 調査担当 滝川邦彦（相川町 佐渡金銀山課主事
 〔平成16年3月1日より佐渡市教育委員会相川事務所 生涯学習課文化行政係主事〕）
 作業員 安達和彦、安藤信義、伊藤栄次郎、岩崎治作、加賀義治、鎌田直治、根本勇三、
 萩原広保、橋本正子、渡辺道春〔敬称略、五十音順〕

平成16年度

調査期間 平成16年9月1日～平成17年3月31日
 調査主体 佐渡市教育委員会（教育長 石瀬佳弘）
 調査指導 文化庁、新潟県教育庁文化行政課
 総括 大蔵 勇（佐渡市教育委員会相川事務所 生涯学習課長）
 事務局 柳平則子（同 相川事務所 生涯学習課副参事）
 門口 栄（同 生涯学習課佐渡金銀山室長）
 岡部欣也（同 相川事務所 生涯学習課補佐）
 斎藤本恭（同 生涯学習課佐渡金銀山室主事）
 調査担当 滝川邦彦（同 相川事務所 生涯学習課主事）
 作業員 有井勝美、安藤信義、池田満、岩崎利光、鎌田直治、坂上辰巳、椎ミチ子、鈴木 誠、
 根本勇三、本間政夫、渡辺千鶴子、渡辺道春〔敬称略、五十音順〕

平成17年度

調査期間 平成17年7月8日～平成18年11月17日
 調査主体 佐渡市教育委員会（教育長 石瀬佳弘）
 調査指導 文化庁、新潟県教育庁文化行政課
 総括 坂本孝明（佐渡市教育委員会 生涯学習課長）
 事務局 齋藤義昭（同 生涯学習課佐渡金銀山室長）
 下谷 徹（同 生涯学習課佐渡金銀山室係長）
 斎藤本恭（同 生涯学習課佐渡金銀山室主任）
 調査担当 滝川邦彦（同 生涯学習課佐渡金銀山室主事）
 調査員 宇佐美亮（同 生涯学習課佐渡金銀山室主事）
 作業員 阿部喜代江、有井カツミ、安藤信義、伊藤 勲、大坂ヒサ、鎌田直治、北見光磨、
 北見泰夫、斎藤恭真、齋藤則夫、鈴木 誠、中川つゆ子、松永チヨ、山本清孝、山本裕幸、
 山本美恵子、渡辺千鶴子、渡辺道春〔敬称略、五十音順〕

平成 18 年度

調 査 期 間	平成 18 年 6 月 5 日～平成 19 年 12 月 22 日
調 査 主 体	佐渡市教育委員会（教育長 石瀬佳弘〔5 月 7 日まで〕、渡邊剛忠〔5 月 8 日から〕）
調 査 指 導	文化庁、新潟県教育庁文化行政課
総 括	石塚秀夫（佐渡市教育委員会 文化振興課長）
事 務 局	齋藤義昭（同 文化振興課佐渡金銀山室長〔同年 10 月より世界遺産推進室長〕） 下谷 徹（同 係長〔同年 10 月より世界遺産推進室係長〕）
調 査 担 当	宇佐美亮（同 主事〔同年 10 月より世界遺産推進室主事〕）
調 査 員	若林篤男（同 主事〔同年 10 月より世界遺産推進室主事〕）
作 業 員	有井勝美、有田和美、安藤信義、大坂ヒサ、鎌田直治、北見光磨、坂本 衛、中川つゆ子、 松永チヨ、村尾 優、山本裕幸、山本美恵子、渡辺千鶴子、渡辺道春〔敬称略、五十音順〕

B 整理体制

平成 17 年度の注記・接合・復元・遺物実測・原稿作成は、平成 17 年 11 月から平成 18 年 3 月にかけて相川支所にて実施し、3 月に調査の概要報告書を刊行した〔佐渡市教育委員会 2006〕。平成 18 年度の注記・接合・復元・遺物実測・原稿作成は、平成 18 年 12 月から平成 19 年 3 月にかけて佐渡奉行所事務室にて実施した。平成 19 年度は、主に報告書の原稿執筆・版組を行った。整理体制は以下に示すとおりである。

平成 17 年度

整 理 期 間	平成 17 年 11 月 24 日～平成 18 年 3 月 31 日
整 理 主 体	佐渡市教育委員会（教育長 石瀬佳弘）
整 理 指 導	文化庁、新潟県教育庁文化行政課
総 括	坂本孝明（佐渡市教育委員会 生涯学習課長）
事 務 局	齋藤義昭（同 生涯学習課佐渡金銀山室長） 下谷 徹（同 生涯学習課佐渡金銀山室係長） 斎藤本恭（同 生涯学習課佐渡金銀山室主任）
整 理 担 当	滝川邦彦（同 生涯学習課佐渡金銀山室主事）
調 査 員	宇佐美亮（同 生涯学習課佐渡金銀山室主事）
作 業 員	鎌田直治、上林章造、斎藤恭真、佐々木春美〔敬称略、五十音順〕

平成 18 年度

整 理 期 間	平成 18 年 12 月 18 日～平成 19 年 3 月 30 日
整 理 主 体	佐渡市教育委員会（教育長 渡邊剛忠）
整 理 指 導	文化庁、新潟県教育庁文化行政課
総 括	石塚秀夫（佐渡市教育委員会 文化振興課長）
事 務 局	齋藤義昭（同 世界遺産推進室長） 下谷 徹（同 世界遺産推進室係長）

整 理 担 当 宇佐美亮（同 世界遺産推進室主事）
調 査 員 若林篤男（同 世界遺産推進室主事）
作 業 員 有田和美、大坂ヒサ、鎌田直治、坂本 衛、佐々木春美、中川つゆ子、松永チヨ、
村尾 優、山本裕幸〔敬称略、五十音順〕

平成 19 年度

整 理 期 間 平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日
整 理 主 体 佐渡市教育委員会（教育長 渡邊剛忠）
整 理 指 導 文化庁、新潟県教育庁文化行政課
総 括 石塚秀夫（佐渡市教育委員会 世界遺産・文化振興課長）
事 務 局 齋藤義昭（同 世界遺産・文化振興課補佐）
下谷 徹（同 世界遺産調査係長）
金子雅晃（同 世界遺産推進係長）
須藤洋行（同 世界遺産推進係主事）
整 理 担 当 宇佐美亮（同 世界遺産調査係主事）
調 査 員 若林篤男（同 世界遺産調査係主事）

3 調査経過

A 事前調査

平成 15 年度から 16 年度にかけて、分布調査・地形測量の事前準備として上相川地区及びその周辺部のなかで地権者の同意を得られた地域の立木竹の伐採作業を行った。上相川地区に係る江戸時代の絵図、明治時代の地籍図等の資料調査を行ったうえで、当該範囲の分布調査を実施した。これにより上相川地区の範囲が確定し、遺跡を構成する遺構のおおまかな分布状況が判明した。この調査成果をもとに、周知の埋蔵文化財包蔵地である「佐渡金山遺跡」の一部として、同遺跡の範囲拡大を行い、周知化を図った。その後、調査の基礎資料とするために平成 16 年度に株式会社オリスに委託して、当該範囲の航空撮影による地形測量を実施し、縮尺 500 分の 1 及び 1,000 分の 1 の地形図を作製した。

B 平成 17 年度調査経過

平成 17 年度の確認調査は、7 月から調査を開始し 11 月に終了した。調査対象は、江戸時代に本町、小右衛門町と呼ばれた範囲で、約 12,400 m²を調査対象とし、291 m²のトレンチ発掘調査を伴う確認調査を実施した。調査の結果、建物の存在を示す遺構は見つからなかったが、未使用で廃棄されたと考えられる精錬炉跡や土器、陶磁器、銭貨、煙管などの遺物が出土している。また、調査期間中の平成 17 年 8 月 1 日には、研究者・有識者による「佐渡金銀山遺跡調査委員会」が設置され、上相川地区を含む佐渡金銀山遺跡 全体の調査への指導を受けることが可能となった。

- 6 月 16 日 佐金室第 20 号により県教育委員会宛で発掘調査の着手報告（法第 99 条）を提出。
- 7 月 8 日 作業員雇用開始。調査区内の樹木伐採を開始。
- 8 月 1 日 樹木伐採・清掃の完了したテラスの写真撮影を開始。検出した石造物・石製品の撮影を

開始。

- 8 月 24 日 県文化行政課北村副参事が来跡、調査指導を受ける。第 1 回佐渡金銀山遺跡調査委員会開催を開催。
- 8 月 25 日 萩原三雄、庄谷邦幸、村上隆調査委員が来跡、調査指導を受ける。
- 9 月 1 日 調査区の樹木伐採作業が完了。
 - 9 日 トレンチを設定して遺構確認作業を開始。
 - 13 日 トレンチ 1 にてNo.44 石垣を検出。
 - 28 日 トレンチ 10 にてNo.47 石垣を検出。
- 10 月 3 日 トレンチ 8、9 にてピット各 1 基を検出。
 - 14 日 県文化行政課春日真実主任調査員が来跡、調査指導を受ける。サブトレンチ 1 でピット 1 基を検出。
 - 17 日 トレンチ 8 にて土坑 4 基・ピット 7 基を検出。トレンチ 9 にて土坑 2 基、ピット 2 基を検出。
 - 21 日 トレンチ 5 にて土坑 1 基を検出。サブトレンチ 3 にてNo.45 石垣を検出。トレンチ 6 にてNo.46 石垣を検出。
 - 26 日 トレンチ 9 にてピット 1 基を検出。
 - 31 日 トレンチの埋め戻し作業を開始。
- 11 月 2 日 調査区で検出された石製品の分布図を作成。
 - 15 日 トレンチの埋め戻し作業が完了。撤収準備を開始。
 - 17 日 現地調査終了。
- 11 月 24 日 整理作業を開始。(3 月 31 日まで)
- 12 月 13 日 佐金室第 43・44 号により新潟県佐渡西警察署長宛てで遺物発見届、県教育委員会宛てで遺物保管証を提出。佐金室第 45 号により県教育委員会宛てで発掘調査の終了報告を提出。

C 平成 18 年度調査経過

平成 18 年度は、文化庁の指導により、当初 4 ヶ年計画であった調査期間を 2 ヶ年に短縮し、発掘調査を行わずに樹木等の下草を伐採したうえで、地表面で確認のできる遺構の調査を主体とする分布調査へと計画を変更した。これに伴い、調査面積を拡大し、調査は江戸時代に九郎左衛門町、弥左衛門町、九郎左衛門裏町とよばれた場所を対象とした。平成 18 年 6 月から開始し、同年 12 月に終了した。調査対象面積は約 22,500 m²である。

- 5 月 10 日 佐教文第 71 号により県教育委員会宛てで発掘調査の着手報告（法第 99 条）を提出。
- 6 月 5 日 作業員雇用開始。樹木伐採を開始する。テラス・石垣・道跡等の遺構について、発見順に遺構番号を付ける。
- 7 月 18 日 県文化行政課小田副参事が来跡、調査指導を受ける。
 - 30 日 日本鉱業史研究会による現地視察。
- 8 月 10 日 文化庁記念物課坂井秀弥主任文化財調査官による現地視察。
- 8 月 23 日 第 1 回佐渡金銀山遺跡調査委員会を開催。
- 8 月 24 日 萩原三雄、村上隆委員が来跡、現地指導を受ける。
- 9 月 20 日 佐渡地域振興局長による現地視察。

- 10 月 5 日 高野市長による現地視察。現場作業終了。
- 10 日 渡邊教育長、石塚課長による現地視察。
- 13 日 文化財保存計画協会矢野和之氏による現地視察。
- 19 日 報道関係者への現地公開。
- 24 日 文化財保護指導員による現地視察。
- 28 ～ 29 日 現地説明会開催。のべ 215 名の参加者が来跡。
- 11 月 1 日 第 2 回佐渡金銀山遺跡調査委員会が開催。
- 2 日 文化庁記念物課岩本健吾課長による現地視察。
- 20 日 佐渡市教育委員による現地視察。
- 12 月 12 日 株式会社セビアスによる石垣等の写真解析図化に伴う写真撮影を開始。(～ 16 日まで)
- 18 日 整理作業開始。(3 月 30 日まで)
- 20 ～ 22 日 テラス・石垣等の遺構平面図を作成。
- 1 月 10 日 佐教文第 326・327 号により新潟県佐渡西警察署長宛てで遺物発見届、県教育委員会宛てで遺物保管証を提出。
佐教文第 325 号により県教育委員会宛で発掘調査の終了報告を提出。

D 平成 19 年度調査経過

平成 19 年度は、確認調査を実施していないが、調査報告書作成のための指導を受けた。また、史跡指定のための資料とするため、上相川地区及び上相川の成立に関連すると想定される慶長 6 年発見と伝承がある道遊の割戸・父の割戸を含む周辺部を併せた地形測量を行い、平成 16 年度に作成した地形図との合成を行った。

- 4 月 9 日 萩原三雄委員が来跡、現地指導を受ける。
- 4 月 20 日 文化庁にて坂井主任調査官より報告書作成における指導を受ける。
- 4 月 26 日 県世界遺産登録推進室による現地視察。
- 5 月 12 日 金銀銅サミットに伴い、泉田裕彦新潟県知事、島根県大田市長、愛媛県新居浜市長、佐渡市長が現地を視察。
- 5 月 15 日 文化財保存計画協会による現地視察。
- 5 月 28 日 国立科学博物館松原聰氏による現地視察。
- 5 月 29 日 県教育次長、文化行政課による現地視察。
- 6 月 1 日 県埋蔵文化財講座に伴う現地説明会。
- 7 月 2 日 上相川地区周辺部を含めた地形測量を開始。(10 月 30 日完了)
- 8 月 2 日 文化庁本中主任文化財調査官による視察。
- 9 月 24 日 上相川現地説明会を開催。